

国際医療福祉専門学校七尾校

介護福祉学科評価

自己点検・評価書

平成26年4月

国際医療福祉専門学校七尾校

自己点検・評価書について

この自己点検評価は「専修学校の専門課程における職業実践専門課程の認定に関する規程（平成25年文部科学大臣告示第133号）」が平成25年8月30日に公布・施行されたことに
対し、平成25年度から実施したものである。職業実践専門課程とは、専修学校の専門課程
（以下「専修学校専門課程」という。）であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力
を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について
組織的な教育を行うもの（以下「職業実践専門課程」という。）を文部科学大臣が認定し
て奨励することにより、専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上を図るこ
とを目的としている。

本校では、「確かな技術力と豊かな人間性を育む」という理念のもと「教育基本法及び学校
教育法に基づき専修学校教育を行い、救急救命士、理学療法士、作業療法士及び介護福祉
士として必要な知識及び技能を教授し、社会に貢献できる人材を育成すること」を教育目的
として即戦力としての専門職の育成に努めているところであるが、この自己点検評価結果
を公表し、外部からの第三者評価を受けることで学校運営、学生教育において改善できると
ころは改善し、より良い学校にしていきたいと考える。

平成26年4月 国際医療福祉専門学校七尾校

評価項目の達成及び取組状況

I. 教育理念・目標

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや適切、1：不適切

評価項目		4	3	2	1
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	学校における職業教育の特色は何か	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

I-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか

【課題】

本校の理念は「確かな技術力と豊かな人間性を育む」であり、目的として「教育基本法及び学校教育法に基づき専修学校教育を行い、救急救命士、理学療法士、作業療法士及び介護福祉士として必要な知識及び技能を教授し、社会に貢献できる人材を育成すること」を掲げている。このような理念・目的から、高度な専門性と愛情あふれる人間性を兼ね備えた即戦力としての専門職という育成人材像が見出されている。

【改善方策】

学校の理念の実現、目的・育成人材像を達成するための教育目標の検討・再検討をし、より具体的に明示していくことが必要である。また、学生・保護者、地域住民に対しても本校の考えが十分に伝わるように、定期的な広報、学校内外等での提示を行っていく。

I-2 学校における職業教育の特色は何か

【課題】

臨床に基づいた技術の向上を主目的とした専門教育、社会人基礎力向上を目的とした職業レディネス教育の二大教育を展開し、即戦力としての専門職の育成に努めている。

【改善方策】

専門技術、社会人基礎力に焦点を当てることで、大学との差異化を明確に保ちながら、地域社会へ即戦力として貢献できる人材育成に努めていく。

I-3 社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか

【課題】

本校は理学療法士・作業療法士・救急救命士・介護福祉士の養成校であり、日々、社会保障制度の改変によって当該職種の業務拡大等が進んでいる。また、2042年に向けて高齢社会が進んでいく中で、医療・福祉専門職のニーズは一層高まっていくことが予測されるが、少子高齢、地方都市の過疎化という現状に対して本校の立地条件を考慮すると、入学者数の安定化を図っていくことは大きな課題となる。

【改善方策】

診療報酬・介護報酬・各職種法の改定によって変化していく医療・介護現場、各専門職の職域・業務拡大に迅速に対応できる教育体制を継続的に検討していく。また、地域交流、北陸の高等学校との情報共有を引き続き行うことにより、本校の学科を含めた医療・福祉分野の認知度を上げていくことに努める。

II. 学校運営

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや適切、1：不適切

評価項目		4	3	2	1
4	目的等に沿った運営方針が策定されているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確にされているか、有効に機能しているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	意思決定システムは確立されているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

II-4 目的等に沿った運営方針が策定されているか

【課題】

委員会への権限移譲等によるボトムアップ方式の意思決定システムを活用した運営を行っているが、明確な運営方針は策定されていない。また、本校を運営する学校法人との連携強化を図っていくことも課題となる。

【改善方策】

学内の運営方針策定機関としては総務委員会が位置しており、当該委員会にて運営方針の明確化を行っていく。

II-5 運営方針に沿った事業計画が策定されているか

【課題】

本校の目的等に沿った教育活動計画立案は教務委員会、それ以外の事業計画立案は総務委員会が担っており、年次単位での学校事業等の実施、見直しが行われている。

【改善方策】

運営方針の明確化を図り、適切な運営方針に則った学校事業計画の策定を行っていく。

II-6 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確にされているか、有効に機能しているか

【課題】

運営組織や意思決定機能についての規則等は学内のもののみ存在しているが、本校を運営する学校法人全体としてのものは不明確である。

【改善方策】

運営組織、意思決定機能を規則等において明文化していくことは将来的に必至であり、まず、短期～中期目標として本校を運営する学校法人との連携を密に図っていけるようになることが必要である。

Ⅱ-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか

【課題】

本校ホームページ、学校案内パンフレット、SNS（ソーシャルネットサービス）、雑誌等にて幅広く本校の教育活動等の取り組みを広報しているが、教育検討の詳細については開示できていない。

【改善方策】

今後、実施予定の教育課程編成委員会等の議事録をホームページ上で公開していく。

Ⅱ-8 意思決定システムは確立されているか

【課題】

各委員会にて各々の分野の計画、審議等を経て、教員会議及び全体会議にて決定をしていく。教務部、事務部の審議においても教員会議及び全体会議が最終意思決定の場として位置付けられている。常設委員会は月に1回定例会議を実施し、教員会議及び全体会議は週に1回開催することで、全教職員が本校の現状を詳細に把握して問題意識を持って学校運営に携わっていくことを目的としている。

委員会、部署の組織図は示してあるが、委員会一部署間の関係性が不明確である。

【改善方策】

組織図の再確認を行い、より合理的で効率的な組織編成を図っていく。

Ⅱ-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

【課題】

LAN サーバーを用いて職員間で情報を共有し、業務の効率化を図っているが、フォルダ、ファイル整理の規定が作成されておらず、情報検索において困難な側面もある。

【改善方策】

共有フォルダの整理を定期的に行っていく、情報システムを最大限に活用していく。それと同時に、IT のみに意識を向けることなく、職員間の交流を密に行い、連絡・報告・相談機能をより意識的に高めていく。

Ⅲ. 教育活動

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや適切、1：不適切

評価項目		4	3	2	1
10	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	授業評価の実施・評価体制はあるか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
15	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17	資格取得に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19	職員の能力開発のための研修等が行われているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Ⅲ-10 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか

【課題】

現行は学校の教育理念に殉じている。介護福祉学科においては平成26年度より「医療的ケア」等の専門的技術修得を加え、求められる介護福祉士としての専門職たるべく新カリキュラム編成を行い教育実践を実施しているところである。

【改善方策】

学校の教育理念に則り、専門性の高い即戦力の提供を目指す。介護福祉士資格取得が変動しつつある現状を常に鑑み、あるべき姿を考慮し、質の高い介護の提供ができる介護福祉士の養成を理念とする。

Ⅲ-11 修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか

【課題】

介護福祉士資格取得時の要件を満たしたものになっている。主に1年時介護の基礎分野、2年時介護応用分野を修得できるように計画されている。

【改善方策】

現在の状態を維持していけるように努めていく。

Ⅲ-12 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

【課題】

各学年において取得すべき教科のカリキュラムとして体系的に編成されている。

【改善方策】

現在の状態を維持していけるように努めていく。

Ⅲ-13 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

【課題】

入学前オリエンテーション、施設見学などの課題を課しているが、介護福祉士の業務分野の専門性と多様性について学習する必要がある。

【改善方策】

各専門分野の講師を招き専門性とその可能性を広めるための講義を設ける。

Ⅲ-14 授業評価の実施・評価体制はあるか

【課題】

教務活動、学校環境等に対する振り返り・課題に対する改善策の検討と実施、各イベントの振り返り等を例年行っているが、「専修学校における学校評価ガイドライン」（平成25年3月文部科学省策定）に基づく自己評価は実施していない。また、学科独自の評価基準は設定していない。

【改善方策】

授業・講義の技法や分かりやすいものであるかを学生によって評価できる機会を設ける。また、専修学校における学校評価ガイドライン」（平成25年3月文部科学省策定）に基づく自己評価を実施していくことで、全教職員が学校・学科の現状、課題を把握し、より広い視野で改善方策を見出ししていくことができるように努める。また、毎年3月に当該年度の自己点検・自己評価を計画的に継続して行っていく。

Ⅲ-15 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか

【課題】

介護実習においては実習指導者会議において外部施設より評価をもらっている。

【改善方策】

教育全般に関して外部評価を受ける必要がある。

Ⅲ-16 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか

【課題】

学校全体の評価基準に殉じ、教員会議において成績判定がなされ、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は学則に則り明確となっている。教育的な配慮に伴う変則的な対応（再試験の在り方）については、検討の余地がある。

【改善方策】

成績評価の在り方は、教員、学科、学校にとっては継続的課題と思われる。今後も、外部関係者・関連団体からの意見を取り入れ、さらに改善をしていく。

Ⅲ-17 資格取得に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

【課題】

体系的な位置づけされている。卒業が資格修得となる。

【改善方策】

現在の状態を維持していけるように努めていく。

Ⅲ-18 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

【 課題 】

条件を満たしている。

【 改善方策 】

現在の状態を維持していけるように努めていく。

Ⅲ-19 職員の能力開発のための研修等が行われているか

【 課題 】

学科内部での研修が企画されていないが、外部団体の企画する講座の講師の依頼を受け研修・共通理解を行っている。また外部で行われる研修に積極的に参加し、研修参加の報告を受け共有し研鑽している。

【 改善方策 】

定期的に学科内部での研修を企画する。

IV. 教育成果

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや適切、1：不適切

評価項目		4	3	2	1
20	就職率の向上が図られているか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
21	資格取得率の向上が図られているか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
22	退学率の低減が図られているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
23	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

IV-20 就職率の向上が図られているか

【課題】

就職率 100%であり問題はない。

【改善方策】

現在の状態を維持していけるように努めていく。

IV-21 資格取得率の向上が図られているか

【課題】

卒業が資格修得の条件であるため、卒業生は全員資格取得となる。

【改善方策】

介護福祉士養成施設協会主催の卒業時共通試験の成績向上を目標として模擬試験を年間4回計画実行し質的向上を図っている。

IV-22 退学率の低減が図られているか

【課題】

学力不足・体力不足・うつ等による退学があり、個々に対応しているが、十分ではない。学力不足に関しては学校全体として、総合教養・プロフェッション養成講座において対応されているが、学科として特設しなければならない課題である。

【改善方策】

学力不足に関する支援対策を教科ごとに緻密に立て対応していく。また自己のメンタル面のケアを実施できるよう、既定の教科外にメンタルヘルスマネジメントを組み入れる。

IV-23 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

【課題】

卒業生の社会的活躍に関してはこれからである。在校生は社会的行事、ボランティアなどで活躍している。

【改善方策】

今後の活躍を卒後研修等にて把握していく。

V. 学生支援

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや適切、1：不適切

評価項目		4	3	2	1
24	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
25	学生相談に関する体制は整備されているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
26	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
27	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
28	課外活動に対する支援体制は整備されているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
29	学生の生活環境への支援は行われているか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
30	保護者と適切に連携しているか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
31	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・所業教育の取組が行われているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

V-24 進路・就職に関する支援体制は整備されているか

【課題】

学科ごとに、担任が主導となり学生に対する個別指導を行っている。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施する。また、必要に応じて改善する。

V-25 学生相談に関する体制は整備されているか

【課題】

相談内容や学生の個性に応じて、適格と思われる教員が個別の相談に応じている。その後、教員会議にて教員間で情報共有を行い、対応策を講じている。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施する。また、必要に応じて改善する。

V-26 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか

【課題】

経済的支援を必要としている学生に対して、日本学生支援機構奨学金制度をはじめ地方公共団体の奨学金制度などを取り扱っている。その他、社会医療法人財団董仙会及び社会福祉法人徳充会介護福祉士修学資金貸与制度を紹介しているが利用者は少ない。

入学時、転学科時、留年（原級留置）時の減免型奨学金および入学時、在学時の成績優秀者への給付型奨学金の制度もある。

また、安価な学生寮や無料の送迎スクールバスを運行し経済的負担を軽減している。

【改善方策】

オリエンテーション等を通して制度の内容を理解してもらうことも必要である。また、経済状況に応じて改善していく必要がある。

V-27 学生の健康管理を担う組織体制はあるか

【課題】

学生の健康管理について、学校医を配置し、その他に入学時の健康調査や在学時の定期健康診断等を実施しているが、健康管理体制が明確化されていない。情報の共有および医療機関との連携が組織的には行われていない。性感染症、流行感染症等に関する講演会の開催、流行感染症対策マニュアル等の作成は行われている。

【改善方策】

学生生活委員会内に健康管理部門を新設し、定期健康診断の実施のみならず、日常の健康・メンタルヘルスマネジメントについても徹底し、医療機関との連携も図っていく。

V-28 課外活動に対する支援体制は整備されているか

【課題】

学校所在地近隣地域の医療・福祉・介護分野の施設・機関等から依頼されたボランティア活動を掲示し、希望する学生の課外活動を支援している。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施する。また、必要に応じて改善する。

V-29 学生の生活環境への支援は行われているか

【課題】

学生生活委員会ならびに学生寮委員会により、全学生（特に学生寮入寮者）には随時生活指導を行うとともに生活環境の改善に向けて環境整備を行っている。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施する。また、必要に応じて改善する。

V-30 保護者と適切に連携しているか

【課題】

1年次前期および2年次後期に保護者懇談会を行い、保護者との情報共有ならびに連絡調整を密に行っている。また、必要に応じて保護者との個別面談ならびに学生を交えた3者面談を行っている。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施する。また、必要に応じて改善する。

V-31 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・所業教育の取組が行われているか

【課題】

入学前オリエンテーションや体験授業等を行うことにより、キャリア教育として高校・高等専修学校等との連携を行っている。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施し、その活動範囲の拡大をはかっていく。

VI. 教育環境

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや適切、1：不適切

評価項目		4	3	2	1
32	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
33	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
34	防災に対する体制は整備されているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

VI-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

【課題】

教育上必要な施設・設備は整備されているが、福祉機器等に関する整備は完全とは言えない。福祉機器等に関しては、関連施設の見学にて補っている。

【改善方策】

必要備品についての検討を行うとともに、外部施設を利用して代替的に補っていく。

VI-33 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

【課題】

一般的に介護福祉学科は卒業までに介護実習を計4回以上あり、学内外の実習、インターンシップに関しては十分と言える。

【改善方策】

現代学生は、生活体験の中での学びが必要と言われており、今後、実践を通して直接学ぶことができる学外実習の拡大も検討していく。

VI-34 防災に対する体制は整備されているか

【課題】

年に1回防災訓練を実施し、教職員ならびに学生に対して防災意識の向上を図り、避難方法、避難経路等の確認をしている。しかし、防災訓練は年に2度行うことが奨励されており、頻度として十分とは言えない。

【改善方策】

カリキュラム上、防災訓練を年に2回実施していくことは困難であるが、消防署と連携を図った防災訓練を2年1度実施し、避難方法等に対するフィードバックを消防職員から直接受けることで、内容の充実を図っていく。

Ⅶ. 学生の受入れ募集

4: 適切、3: ほぼ適切、2: やや適切、1: 不適切

評価項目		4	3	2	1
35	学生募集活動は、適正に行われているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
36	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
37	学納金は妥当なものとなっているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Ⅶ-35 学生募集活動は、適正に行われているか

【課題】

平成24年度より広報・入試委員会から独立した学生募集委員会を編成し、高等学校への広報活動を重点に置いた組織の強化を図る。高等学校の進路指導室への訪問等を計画的に行い、本校に対して興味を抱く高校生が増えるように努めている。しかし、本校を幅広く伝えていくためには進路指導教員のみならず、その学校全体に対するアプローチも必要である。

【改善方策】

高等学校単位での本校見学会、各高等学校への訪問授業等の機会を増やしていく。

Ⅶ-36 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

【課題】

基本的に学校案内パンフレット等による説明を行っており、本校の教育成果等の現状については全体会議等で審議を行って、全教職員が統一して伝えていくことができるように努めている。しかし、現状として、高等学校によって理解度の差異が見られている。

【改善方策】

継続して、計画的で統一した学生募集活動を行っていく。また、前述と同様に、高等学校と関わる機会をより増やしていく。

Ⅶ-37 学納金は妥当なものとなっているか

【課題】

北陸3県の同系専門学校と比較して、理学療法学科ならびに作業療法学科の学納金の額は、低い水準である。介護福祉学科は、高い水準である。救急救命学科は、北陸3県では本校が唯一の専門学校であるため比較はできないが、関西方面の専門学校と比較すると同水準である。

【改善方策】

経済状況や学費納付率のほか、他校との水準を比較検討し、金額の妥当性について定期的に確認のうえ、学費体系の見直しを含め改善していく。

VIII. 財務

4: 適切、3: ほぼ適切、2: やや適切、1: 不適切

評価項目		4	3	2	1
38	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
39	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
40	財務について会計監査が適正に行われているか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
41	財務情報公開の体制整備はできているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

VIII-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

【課題】

総定員に対して学生充足率が 53.8%であり、入学者が定員に達していない状況である。安定した財政基盤の確立を図る必要がある。

【改善方策】

既存学科の入学者確保を強化する一方、新たな事業計画も検討し、財政基盤の安定化を図る。

VIII-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

【課題】

単年度における予算・収支計画は、経費の削減を行い適正に実施されているが、中長期的な予算・収支計画が現状の学生充足率では適正に実施できない。

【改善方策】

財政基盤の安定化を図る。

VIII-40 財務について会計監査が適正に行われているか

【課題】

年 2 回の会計監査を実施しているため、適正に行われている。

【改善方策】

継続して第 3 者による点検を実施していく。

VIII-41 財務情報公開の体制整備はできているか

【課題】

連結決算のため財務情報の管理は法人本部で行っており、学校単位での財務情報公開がなされていない。

【改善方策】

法人本部との連携を図りながら財務情報公開の体制整備を検討する。

IX. 法令等の遵守

4: 適切、3: ほぼ適切、2: やや適切、1: 不適切

評価項目		4	3	2	1
42	法令、専修学校の設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
43	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
44	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
45	自己評価結果を公開しているか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

IX-42 法令、専修学校の設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

【課題】

当該項目は、ほぼ達成できている。

【改善方策】

組織内に監査部門を設置し、定期的な点検を行うことで、適正な運営を行う。

IX-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

【課題】

ほぼ適正に実施されている。

【改善方策】

個人情報保護のための規程を見直し、定期的な点検も含めて適正な運営を行う。

IX-44 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか

【課題】

教務活動、学校環境等に対する振り返り・課題に対する改善策の検討と実施、各イベントの振り返り等を例年行っているが、「専修学校における学校評価ガイドライン」（平成 25 年 3 月文部科学省策定）に基づく自己評価は実施していない。

【改善方策】

専修学校における学校評価ガイドライン」（平成 25 年 3 月文部科学省策定）に基づく自己評価を実施していくことで、全教職員が学校・学科の現状、課題を把握し、より広い視野で改善方策を見出していくことができるように努める。また、毎年 3 月に当該年度の自己点検・自己評価を計画的に継続して行っていく。

IX-45 自己評価結果を公開しているか

【課題】

本校ホームページのトップページに情報公開バナーを設け、即座に本校の情報を閲覧することができるように設定済みであるが、自己評価の結果を公開できていない。

【改善方策】

年次単位での自己点検・評価を計画し、自己評価が終わり次第、随時公開していく。

X. 社会貢献・地域貢献

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや適切、1：不適切

評価項目		4	3	2	1
46	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
47	学生のボランティア活動の奨励、支援をしているか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
48	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を積極的に実施しているか	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

X-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

【課題】

教員が所属する団体や学会等からの依頼に対し、研修会・講習会等を開催する際に学校施設を会場として提供し、また、教員の派遣を行っている。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施し、その活動範囲の拡大をはかっていく。

X-47 学生のボランティア活動の奨励、支援をしているか

【課題】

当該項目は達成できている。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施する。また、必要に応じて改善する。

X-48 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を積極的に実施しているか

【課題】

市民公開講座等を開催することにより、社会貢献・地域貢献活動を行っている。

【改善方策】

今後も現行の取り組みを継続的に実施し、その活動範囲の拡大をはかっていく。